令和３年度

印旛地区教育研究集会外国語研究部　提案資料

研究主題

「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」

～文字への興味関心を高める授業を通して～

八街市立八街北小学校

首藤千亜季　　戸田雅人

１　研究主題

「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」
～文字への興味関心を高める授業を通して～

２　主題設定の理由

（１）　学習指導要領より

２０２０年度より小学校では，新学習指導要領に基づく指導が施行されている。５，６年生は年間７０時間の外国語科の実施となった。外国語科の目標は以下の通りである。

> 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
> （１）外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解するとともに，読むこと，書くことに慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
> （２）コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりするとともに，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
> （３）外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

グローバル化が急速に進展する中で，外国語によるコミュニケーション能力は一部の場面や職種だけでなく，様々な場面で必要とされることが想定され，その能力の向上が課題となっている。それを踏まえ，小学校では平成２３年度から高学年において外国語活動を導入した。小学校段階から学習することで，音声への慣れ親しみといった点での成果は見られた。一方，①音声中心で学んだことが，中学校段階で音声から文字への学習に円滑に接続されない，②日本語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係，文構造の学習において課題がある，③高学年は，児童の抽象的な思考力が高まる段階であり，より体系的な学習が求められていることなどが課題として指摘された。

この課題を踏まえ，中学年から，「聞くこと」及び「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ，外国語学習への動機づけを高めることとした。その上で，高学年から教科として外国語科を導入し，発達の段階に応じて段階的に英語で書かれた文字を「読むこと」，「書くこと」を加えて学習を行うことが求められている。英語の音だけでなく文字にも興味関心をもち，コミュニケーションに生かしていくには，どのような手立てが有効か検証する必要があると考えた。

（２）　学校教育目標より

本校の学校教育目標は，「思いやりがあり，創造力・課題解決力のある心身ともに健康な児童の育成」である。この目標を達成するため，①思いやりがあって他者に対して気配りができる児童，②課題を自分のものとして捉え，友達との交流を通して考えを深めて解決できる児童，をめざす児童像として示し

ている。

本校のめざす児童像は，新学習指導要領外国語科の目標（３）「外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」と関連している。初めて外国語に触れる段階である小学生は，母語を用いたコミュニケーションを図る時には意識されていなかった，相手の発する外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとしたり，もっている知識などを総動員して他者に外国語で自分の思いを何とかして伝えようとしたりする。どちらの立場であっても，コミュニケーションを成立させるには，相手に対する配慮が必要であると言える。また，外国語を用いてコミュニケーションをとろうとしたが相手へ意思が伝わらなかった場合，児童は友達に伝え方を尋ねたり友達の発言から手がかりを得たりして，話し方を改めようと努めている。

以上のことを踏まえると，外国語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成することで，本校の目標としている児童の育成にもつながるのではないかと考えた。

（３） 学校および児童の実態より

本校は八街市北部に位置し，市の中でも住宅地が多いところである。住宅地の周辺部には，下総台地の田園風景が広がっている。開校当時（平成４年）は住宅地の建設ラッシュで，児童数も一時 700 人を越えたが，現在は約 250 人の全学年２クラス編成となっている。

児童は明るく活発で，素直である。学習面では，学習規則を守って落ち着いて授業に取り組み，学力を伸ばそうと努力する姿が見られる。グループ活動では，友達と協力して問題解決の手立てを考えたり，話し合いをする中で友達の考えに共感・納得，時には反論したりするなど，積極的に活動に参加する児童が多い。一方で，心の成長と共に自分の学力レベルや得意・苦手な学習がわかるようになり，授業によってグループ活動での発言数が異なる児童や，全体発表の場での発表に積極的でない児童も見られる。外国語科についても，同様な現状である。以下は，外国語科への意識調査と，前提テストの結果と考察である。

【意識調査】対象者：５，６年生

児童の外国語の学習に対する意識について，「とても当てはまる」を４点，「まあまあ当てはまる」を３点，「あまり当てはまらない」を２点，「全く当てはまらない」を１点として平均点を算出した。

No.	質問事項	平均点	百分率
1	外国語の学習は，好きですか。	3.34	84%
2	英語を話せるようになりたいですか。	3.59	90%
3	英語を聞き取れるようになりたいですか。	3.59	90%
4	英語を読めるようになりたいですか。	3.54	84%
5	英語を書けるようになりたいですか。	3.49	87%
6	英語のキーワードを，覚えられますか。	2.85	71%
7	英語のキーワードを，繰り返して言うと覚えられますか。	2.95	74%
8	英語を使って友達と話すときの言い方を，覚えられますか。	2.54	64%
9	英語で友達と話すときの言い方を，くり返し言うと覚えられますか。	2.85	71%

10	アルファベットの大文字を，書くことができますか。	3.61	90%
11	アルファベットの大文字を，読むことができますか。	3.76	94%
12	アルファベットの小文字を，書くことができますか。	3.34	84%
13	アルファベットの小文字を，読むことができますか。	3.61	90%
14	英語で書かれた言葉(英単語)を読むことができますか。	2.20	55%
15	今までに学習した会話を，覚えていますか。	2.83	71%
16	今までに学習した会話をすることができますか。	2.68	67%

英語で会話や発表ができるようになるために，取り入れてほしい活動	・英語を書く（26%） ・暗記する時間（42%） ・繰り返し言う回数を増やす（47%） ・会話の文が黒板に書いてあってほしい（16%）

意識調査の結果を見ると，次の２つのことが課題としてあげられる。

１つ目は，英語を「話すこと」，「聞くこと」についてである。「2　英語を話せるようになりたいですか。」「3　英語を話せるようになりたいですか。」という問いに対して，90%の児童が当てはまると回答している。その一方で，「16　今までに学習した会話をすることができますか。」という問いに対して，当てはまると回答した児童は 67%にとどまっている。話したいという意欲はもっているものの，実際に英語で会話する技術が身に付いている児童は半数程度であるということがわかる。

２つ目は，英語を「読むこと」，「書くこと」についてである。「10　アルファベットの大文字を書くことができますか。」「12　アルファベットの小文字を，書くことができますか。」という問いについても，80%以上の児童が当てはまると回答している。さらに，「11　アルファベットの大文字を，読むことができますか。」「13　アルファベットの小文字を，読むことができますか。」という問いに対しては，90%以上の児童が当てはまると回答している。一方，「14　英語で書かれた言葉を読むことができますか。」という問いに対しては，当てはまると回答した児童が 70%となっている。アルファベットの文字を読んだり書いたりすることは中学年のころから行っているため理解しているが，英語で書かれた言葉を意識的に読んだり，書いたりする経験をあまりしていないため，英語を読む・書くことに自信をもてていないことがわかる。

また，児童に上記の「英語で会話や発表ができるようになるために，取り入れてほしい活動」についての記述式アンケートをとった結果，英語を話す時間の確保，英語を書く活動を希望する児童がいることがわかった。

これらの結果から，①児童は英語を使って会話ができるようになりたいという気持ちはあるが，授業中の活動において，英語を使って会話をする場面が十分に確保されていないということ，②アルファベットの名前と書き方は概ね理解しているが，英単語に意識的に目を向ける機会が少ないということがわかった。

以上３つの理由から，本主題を設定する。本主題を達成すべく，以下の２つの仮説を立て，研究を実践していく。

３　研究の仮説

仮説１　ＩＣＴ機器を効果的に活用すれば，英語をアウトプットする方法が多様化し，英語の文字への興味関心が高まるだろう。

仮説２　授業における活動形態を工夫すれば，他者に英語を使って意思を伝えようとする意欲が向上し，主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成につながるだろう。

４　研究の内容と方法

仮説１より

（１）アルファベット・ジングルを用いて，アルファベットの名前と音を理解する。

● Ｗｅ　Ｃａｎ！１のデジタル教科書に取り込まれている「アルファベット・ジングル」を視聴し，繰り返し発音させる。ジングルとは本来，擬音語のことであるが，小学校外国語では，アルファベット・ジングルのことを指す言葉とする。これは，アルファベットの文字の名前，それが表す発音，その発音で始まる単語が１セットになっており，リズムに乗って唱えていく。（資料１）

　これを行い，アルファベットには文字の名称と異なる発音があるということを理解して，聞きなれない英語の音にも慣れていくことが目的である。

● アルファベット・ジングルを視聴した後に，音を聞いて文字を書く活動を行い，アルファベット文字と音の理解を深められるようにする。

（２）ＩＣＴ機器を用いて，英単語や英文を調べ，文字への興味関心を高める。

● 「話すこと」の学習内容において，自分が伝えたいことを日本語の文章で書き出し，担任が英語にしやすい文章に改めた後，ＩＣＴ機器を用いて英単語や英文を調べ，ワークシートに書かせる。伝えたいことを自分で調べて英語の文章にするという目的をもって文字を書いたり読んだりすることで，学習内容の定着につなげることが目的である。

仮説２より

（１）ペア学習を取り入れる。

● ペア学習の意義を，①気軽に意見が言えたり，相談したりできる，②自分の考えを確かめ，自信をもつことができる，③自分と違った考えに気付くことができる，と捉える。これらを踏まえ，ペア学習は既習内容を用いた会話などをするときに取り入れることとする。既習の表現をペアで繰り返し話すことで，英語表現の習得につなげることが目的である。

（２）グループ学習を取り入れる。

● グループ学習の意義を，①自分の考えを深めたり，広げたりすることができる，②学習が遅れがちな子や，消極的な子も発言しやすく，話合いへの参加が期待できる，③子ども同士で主体的に学習することができる，と捉える。これらを踏まえ，グループ学習を授業の主活動の中に取り入れる。他者の意見に触れながら自分の意見を改善しようとする中で，自分の意見に自信をもっ

て主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢につなげていくことを目的としている。

5　研究の実際

〈令和２年度　小学５年生の実践〉

教科書　ONE WORLD Smiles

単 元　Lesson9 This is my dream friends.（全７時間）

友達になってみたい人をしょうかいしよう

目標

・人の得意なことや特ちょうの伝え方を知って，言うことができる。[知識・技能]

・人をしょうかいする表現を知って，言うことができる。[知識・技能]

・友達になりたい人を考えてワークシートに書き，しょうかいすることができる。[思考・判断・表現]

・相手にわかりやすく話そうとしたり，相手の話をよく聞こうとしたりする。

[主体的に学習に取り組む態度]

扱う内容，表現例・語彙例

・Who is your dream friend?

・This is my dream friend.

・(She) can (swim very fast).

・(She) is (cool).

・What are you good at?

・I'm good at (cooking).

・(He) is good at (swimming).

・(He) is my favorite (baseball player).

・形容詞 (brave, cool, funny, strong, great, kind)

仮説１について

（１）アルファベット・ジングルを用いて，アルファベットの名前と発音を理解する。【毎時間実施】

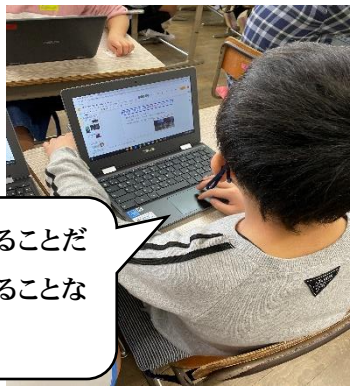
帯活動に，毎回アルファベット・ジングルを行った。毎時間行うことで，児童はアルファベットの文字の名前と，それが表す発音を覚えてきた。単元の終末に近づくにつれて，繰り返しの前から音と一緒に発音を口ずさむ児童が増えてきた。

その後，ワークシートを用いて，３letter words クイズに取り組んだ。児童は，音と挿絵を手掛かりにアルファベットの文字を書いていた。音を聞いて書くと，R と L，M と N を間違える児童が見られた。間違えやすいアルファベットの文字は毎回出題するようにしていたので，回数を重ねていくと，間違いも減ってきた。（資料２）

ＡＬＴが １ 文字ずつ発音するアルファベットの音を聞いて，それをワークシートに書いている。回数を重ねていくと，ｓの音を聞いただけで，「これは，ｓの音だ。」と気付いて，書ける児童が増えてきてきた。

（２）ＩＣＴ機器を用いて，英単語や英文を調べ，文字への興味関心を高める。（第６時）

友達になりたい有名人を考えてワークシートに書き，紹介する活動を行った。まず，友達になりたい有名人の得意なこと（good at）やできること（can），性格などを，google chrome を用いて調べた。得た情報を文章にして，英語にしやすい文章に改めた。その後，Google chrome を用いて英単語や英文を調べ，ワークシートに書いた。インターネットで検索をすると，英語を発音する機能も付いており，数名の児童は音を聞いて発表するときのために，読み方を書き込んでいた。（資料３）



水泳の萩野公介選手を調べている。水泳ができることだけでなく，努力家であることや英語が堪能に話せることなどを，インターネット上のサイトから取得した。

仮説２について

（１）ペア学習を取り入れる。【毎時間実施】

会話の内容
A：What　〇〇　do　you　like?
B：I　like　〇〇.
　　What　〇〇　do　you　like?
A：I　like　〇〇.
A・B：See　you.
※友達の意見に good や me too と言ったり，好きなものを２つ伝えたりするなどの会話の追加を促す。

帯活動に「Small talk」 を行った。ペアを組んで既習内容を用いた会話をしたが，多くの児童は自信をもって会話をしていた。

「What 〇〇 do you like?」の質問に対して，「I like 〇〇.」と答える練習を事前に行ったが，単語のみでの返答も容認してあげることで，会話への抵抗感が減った児童も見られた。

数名の児童は，相手の意見に同意したり，「Do you like 〇〇？」と質問を追加したりしていた。

（２）グループ学習を取り入れる。（第７・８時）

第６時に仕上げたワークシートを用いて，グループで会話の練習を行った。本学級では，１グループ３人とした。基本的には，１人が友達になってみたい人を紹介し，それを２人の児童が聞くこととした。実際には，友達の発言を聞いて，どのような意味か尋ねる児童，英単語をどのように読むのか友達に相談している児童，ワークシートを見ないで言えているか友達に確認を依頼する児童などがいた。グループで学習のスタイルを変化させながら，全体での発表に向けて，会話の練習を行っていた。

② ①の目を見て，発表を聞いている。

① 紹介文を暗記して，②の児童の目を見て伝えている。

③ ①のワークシートを見ながら，伝えていることが正しいか確認している。

〈令和３年度　小学６年生の実践〉

教科書　ONE WORLD Smiles

単 元　Lesson３ Welcome to Japan.（全７時間）

好きな日本の文化

目標

・日本の行事や食べ物，味の表現を，聞いたり言ったりすることができる。[知識・技能]

・日本の文化を紹介する表現を知って，聞いたり言ったりすることができる。[知識・技能]

・ポスターをつくって，好きな日本の文化を紹介することができる。[思考・判断・表現]

・日本の文化をわかりやすく伝えようとしたり，さまざまな文化について知ろうとしたりする。

[主体的に学習に取り組む態度]

扱う内容，表現例・語彙例

・What do you like about Japan?

・Welcome to Japan.

・You can (see the full moon in autumn).

・You can (eat delicious dango).

・It's (sweet).

・I like (hanami) in (spring).

・We can enjoy (beautiful fireworks).

・Please try it!

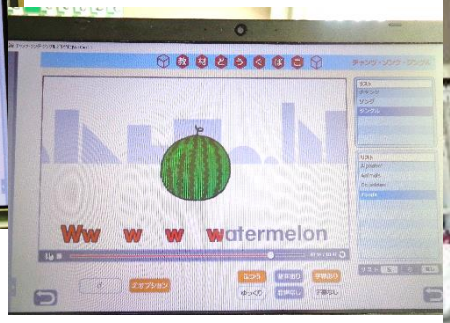
・行事（New Year's Day, Star festival　等）

・形容詞（sweet, sour, bitter, salty 等）

仮説１について

（１）アルファベット・ジングルを用いて，アルファベットの名前と発音を理解する。【毎時間実施】

アルファベットの文字の名前，それが表す発音，その発音で始まる単語を聞いた後に，児童はそれと同じように繰り返す。動物の名前や国名，食べ物の名前など種類を適宜変えながら毎時間行うことで，児童はアルファベットの文字の名前と，それが表す発音を楽しみながら聞いたり，発音したりした。アルファベットの発音をよく聞いて，同じように繰り返すことができる児童が増えた。



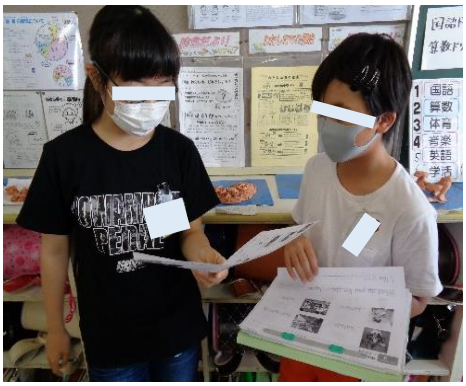
ワークシートを用いて，３letter words クイズや４letter words puzzle（資料４）などに取り組んだ。アルファベット三文字の単語で，児童は音と挿絵を手掛かりに一文字目や三文字目のアルファベットの文字を書いたり，アルファベットの順番が入れ替わっているものを挿絵に合わせて正しく並び変えたりするなど，様々な形でアルファベットの発音を意識させてきた。アルファベット３文字には慣れてきたが，４文字の単語になると出てくる単語の幅が広がり，挿絵があっても戸惑う児童もいた。

（２）ＩＣＴ機器を用いて，英単語や英文を調べ，文字への興味関心を高める。（第５時）

第４時には，季節ごとの自分の好きな日本の行事や食べ物について友達と紹介し合い，友達が紹介していた好きな食べ物や行事などをメモに書いた。その紹介し合ったことも生かして，第５時には，自分が外国の人に紹介したい日本の文化を決め，行事や食べ物の言い方，味についてなどの英単語や英文を Google chrome で調べ，ワークシートに絵と英文を書いた。教科書には載っていない食べ物の言い方や行事の言い方についてインターネットで検索することができた。さらに，発表するときのために，英語を発音する機能を使って読み方を書き込む児童の姿が見られた。（資料５）

仮説２について

（１）ペア学習を取り入れる。【毎時間実施】



会話の内容
A：What do you like about Japan?
B：I like ○○ in ○○.
What do you like about Japan in ○○?
A：I like ○○ In ○○.
A・B：See you.

帯活動の「Small talk」 において，ペア学習を取り入れた。既習内容を用いた会話なので，多くの児童は自信をもって会話をしていた。

「What do you like about Japan?」の質問に対して，「I like ○○ in ○○.」と答える練習を事前に行い，単語のみでの返答や季節を付け加えられなくてもよいこととした。

（２）グループ学習を取り入れる。（第６・７時）

第５時に仕上げたワークシートを用いて，グループで会話の練習を行った。１グループ３人編成とした。友達の発言を聞いて，どのような意味か尋ねる児童，英単語をどのように読むのか友達に相談している児童がいた。また，ALT にも確認をしながら，全体での発表に向けて，会話の練習を行っている児童の姿も見られた。

友達に英単語の読み方を相談し，ALT にも聞いている。

ALT の先生

友達から英単語をどのように読んだらよいか相談を受けたことについて，友達と一緒に ALT に確認している。

〈令和３年度　小学５年生の実践〉

教科書　ONE WORLD Smiles

単 元　Lesson3 I have P.E. on Monday.（全７時間）

夢の時間わりをつくろう

目 標

・教科や時間割，職業の表し方を知り，言うことができる。[知識・技能]

・アルファベットと小文字の組み合わせがわかり，正しく書くことができる。[知識・技能]

・夢の時間割を考えて，伝えることができる。[思考・判断・表現]

・発表している友達が話しやすい聞き方をしようとする。[主体的に学習に取り組む態度]

扱う内容，表現例・語彙例

・I have (math) on (Tuesday).

・What do you have on (Monday)?

・I have (Japanese,math,and arts and crafts).

・I study (P.E.) with (Hanyu Yuzuru).

・Good idea!

仮説１について

（１）アルファベット・ジングルを用いて，アルファベットの名前と発音を理解する。【毎時間実施】

アルファベット・ジングルを毎時間，帯活動に取り入れた。アルファベットの文字の名前と，それが表す発音を覚えてきた児童が数名見られたが，多くの児童はアルファベット・ジングルを聞いて繰り返して発音するときは元気よく行っているが，繰り返しでないと，アルファベットの名前がわかっても音がわからない児童が見られた。

３letter words クイズ（資料６）に取り組んだ。児童は，音と挿絵を手掛かりにアルファベットの文字を書いていた。音を聞いて書けるようになってきた児童が見られたが，アルファベット・ジングル同様，まだ音を聞いて文字を書くことに難しさを感じている児童が多かった。

（２）ＩＣＴ機器を用いて，英単語や英文を調べ，文字への興味関心を高める。（第６時）

第５時からは，将来就きたい職業を考えてワークシートに書き，紹介する活動をした。まず，就きたい職業に必要な学習（教科）と，それを教えてくれる先生になってほしい人（歴史の偉人，スポーツ選手，歌手など）について，インターネットを用いて調べた。次に，調べたことを文章にする活動に取り組んだ。児童の書いた日本語の文章を，担任が加除修正した。そして，児童はインターネットを用いて英単語を調べたり，担任や ALT に質問したりして，日本語の文章を英文に訳し，ワークシートに書き込んだ。インターネットで検索すると，英語を発音する機能も付いていたり，知りたい英単語がすぐに調べたりすることができるため，「どうやって書くのかわからない」 といったつまずきが無く，児童は「英語ではこうやって言うのか！」「なるほど」などの発言が見られ，意欲的に活動に取り組むことができた。

就きたい職業に必要な学習（教科）と，それを教えてくれる先生になってほしい人を調べている。

仮説２について

（１）ペア学習を取り入れる。【毎時間実施】

会話の内容
A：What do you have on ○○?
B：I have ○○.
　　What do you have on ○○?
A：I have ○○.
A・B：See you.

帯活動の「Small talk」では，ペア学習を取り入れた。既習内容を用いた会話のため，多くの児童は自信をもって会話をしていた。

「What do you have on ○○?」の質問に対して，「I have ○○.」と答える練習を事前に行った。単語のみでの返答も容認することで，会話への抵抗感が減った児童も見られた。

（２）グループ学習を取り入れる。（第６・７時）

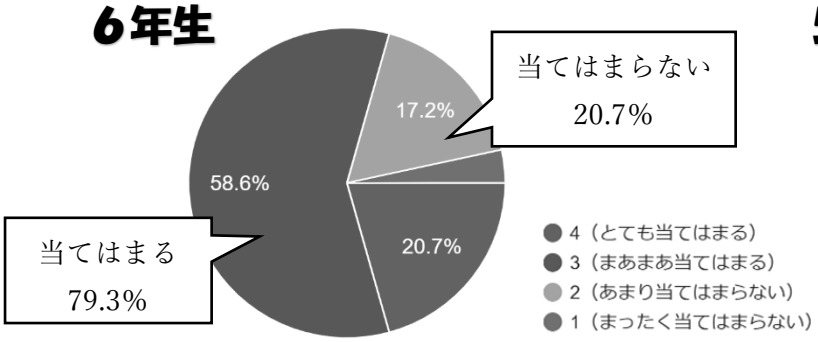
第５時に仕上げたワークシートを用いて，グループで会話を行った。本学級では，１グループ３～４人とした。１人が友達に夢の時間割を紹介し，それを２～３人の児童が聞くようにした。友達の発表を聞いて，「それって何て言うの？」「○○な人（有名な人）にその教科を教えてもらえると楽しそうだね！」など，自分の考えを広げたり，積極的に発言したりする児童がほとんどであった。

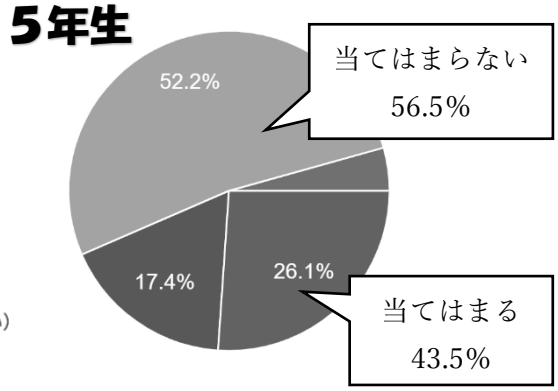
６　仮説の考察

（１）仮説１について

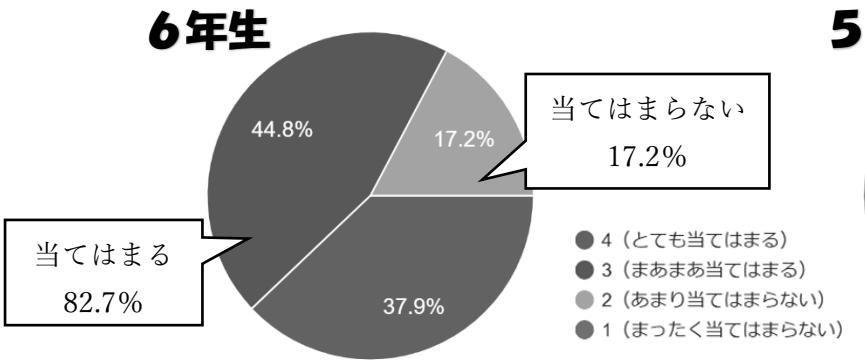
【意識調査の結果】

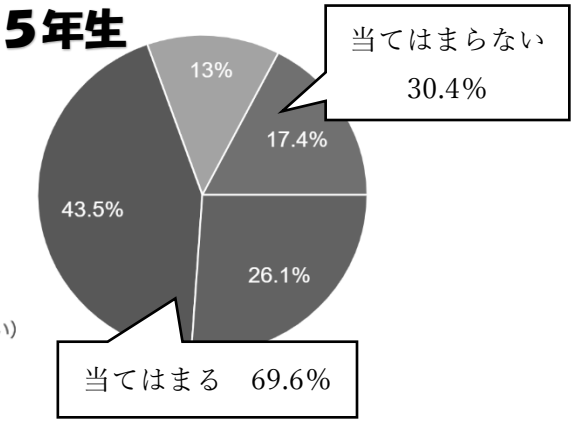
① 英語で書かれた言葉を読むことができますか。



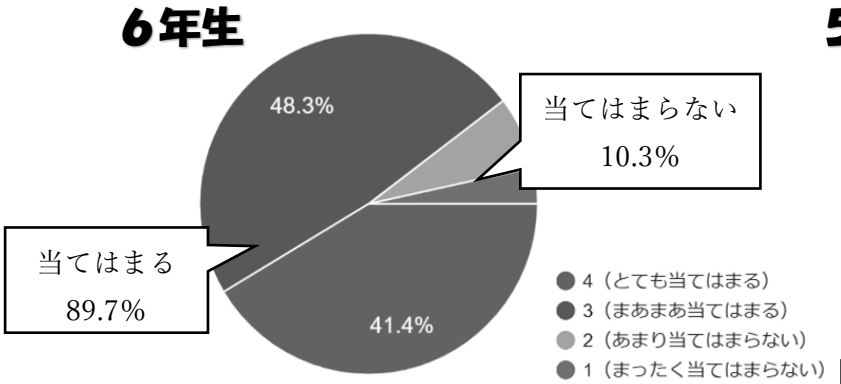


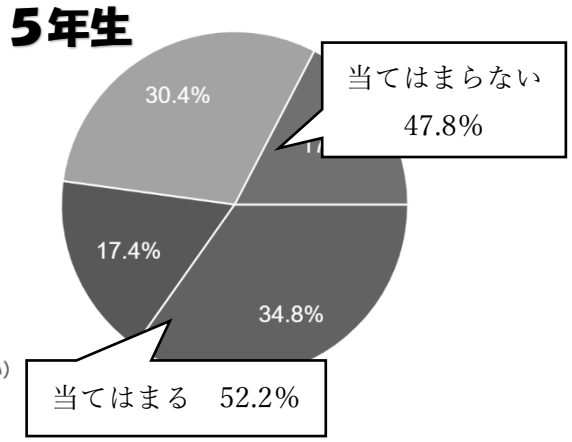
② Google chrome を使って英語を調べることで，英語の読み方や発音がわかりましたか。





③ Google chrome を使って英語を調べることで，英語の書き方がわかりましたか。





【考察】

・「① 英語で書かれた言葉を読むことができますか。」という質問に対し，６年生の児童は 79.3%の割合で当てはまると回答している。研究前（55%）と比べると，24.3%も上昇している。一方，５年生の児童は当てはまらない児童の方が半数を超えている。５年生から，継続してアルファベット・ジングルや，音を聞いて文字を書く学習などに取り組むことで，英語を読む力が向上することがわかる。

・「② Google chrome を使って英語を調べることで，英語の読み方や発音がわかりましたか。」という質問に，６年生の児童は 82.7%の割合で当てはまると回答している。ＩＣＴ機器を用いて英語を調べることで，英語の文字を見て意識的に読んだり書いたりする機会が増えるため，それが読む・書く力を伸ばすのに効果的だったと言える。

・「③ Google chrome を使って英語を調べることで，英語の書き方がわかりましたか。」という質問に対し，５年生は，書き方がわかったと回答した児童は半数である。５年生は，アルファベットの書き方を学習している途中なので，ICT 機器を用いて調べたとしても，それが英単語を書く技能の習得とは直結していないことがわかる。

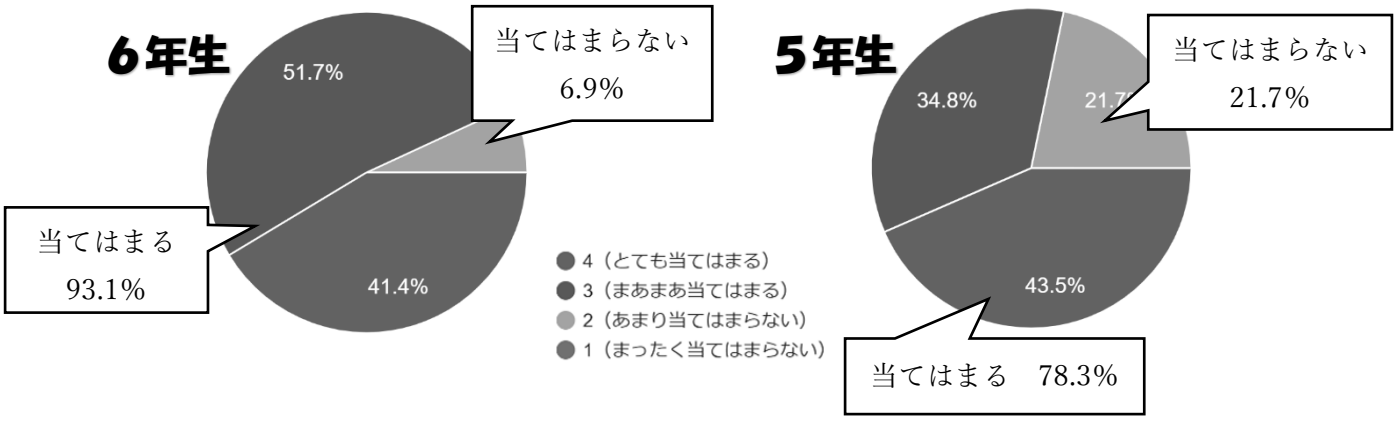
　一方，６年生の児童は 89.7%の割合で書き方がわかったと回答している。５年生のときの，知識・技能の積み重ねのある６年生は，ＩＣＴ機器を用いて自分が伝えたいことを調べ，思いを伝えるのに必要な英単語を書くという経験が，書き方の習得につながったということがわかる。

・②，③について当てはまらないと回答した児童の実態として，ローマ字打ちに慣れていない，Google chrome の操作方法がわからないということが挙げられる。今後，Google chrome を，外国語を含め他教科においても有効的に活用する方法を探求していく必要がある。

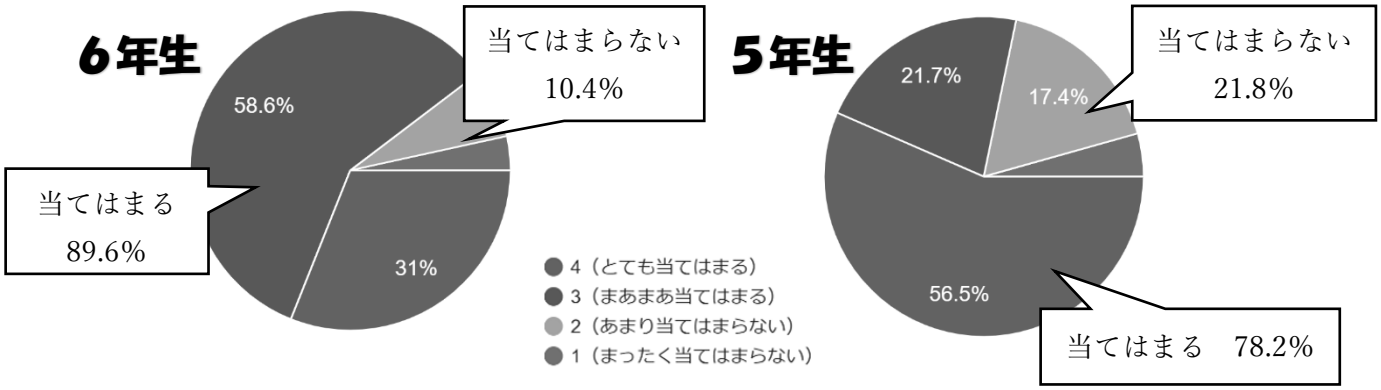
（２）仮説２について

【意識調査の結果】

① 今までに学習した英語を使ってペアで会話することで，積極的に会話ができるようになったと感じますか。



② グループ学習をすることで，自信をもって積極的に発表したり会話したりすることにつながったと感じますか。



【考察】

・「① 今までに学習した英語を使ってペアで会話することで，積極的に会話ができるようになったと感じますか。」という質問に対し，６年生は 93.1%，５年生は 78.3%の割合で当てはまると回答している。既習の表現を使ってペアで繰り返し話すことで，児童は英会話を楽しめるようになり，英語を使ってコミュニケーションを図ることへの意欲が向上したことがわかる。

・「② グループ学習をすることで，自信をもって積極的に発表したり会話したりすることにつながったと感じますか。」という質問に，６年生は 89.6%，５年生は 78.2%の割合で当てはまると回答している。グループ活動は，友達と交流するために自分の意見や考えを確実にもたなければならない。ゆえに，自分の意見を大切にすることから，主体的な学習につながったと言える。しかし，20～30%の児童が，当てはまらないと回答していることから，グループ活動における教師の支援の方法について今後検討する必要がある。

７　研究のまとめ（成果と課題）

（１）成果

○　アルファベット・ジングルと音を聞いて文字を書く活動を帯活動に取り入れることで，アルファベットの名前と音についての理解が深まり，英単語を読む力が向上する。

○　自分の意見を英語で伝えるために，ＩＣＴ機器を活用することは，児童の主体的な学びにつながる。

○　ペアで会話する活動を取り入れることで，英語の既習表現を確実に理解できるようになる。

○　グループの友達と互いの意見を交流することで，英語の理解だけでなく，主体的に学ぼうとする前向きな姿勢が生まれる。

（２）課題

●　アルファベット・ジングルと音を聞いて文字を書く活動を取り入れると，慣れてくるまでは時間がかかってしまい，主活動の時間が削られてしまう。

●　Google chrome の操作方法がわからない，ローマ字打ちに慣れていない，という児童への支援の仕方を検討する必要がある。

●　外国語科におけるグループ活動の取り入れ方については，今後も検討が必要である。

●　中学校で使用している教科書の内容を見ると，小学校で英語を書いたり読んだりする学習に慣れ親しむ程度では，中学校英語科とのスムーズな接続が困難ではないかと考える。小中学校で連携を図り，書くこと読むことについての指導方法を検討する必要がある。

【参考文献】

〇文部科学省（２０１７）小学校学習指導要領　外国語活動・外国語編　開隆堂出版
〇文部科学省（２０１７）小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック　旺文社
〇加賀田哲也（２０１８）英語教育相談室　光村図書
〇金森　強　（２０１７）主体的な学びをめざす小学校英語教育　教育出版